令和8年度 公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ活動等普及奨励助成事業

国立曽爾青少年自然の家 教育事業 森の子パークで遊ぼう、学ぼう（10月）



［ 主　催 ］国立曽爾青少年自然の家
［ 助　成 ］公益財団法人 スポーツ安全協会
［ 協　賛 ］株式会社インフィニティ
［ 期　日 ］令和８年10月３日(土)、４日(日)
（両日日帰り・宿泊参加あり）
［ 場　所 ］国立曽爾青少年自然の家 キャンプ場
［ 対象者 ］幼児・小学生を含む家族
［ 参加/募集 ］186 名/150名
（10/3：89 名、10/4：97 名）
［ 講　師 ］

- **山本 剛 氏**（名張グリーンキーパーズ：伐倒・森の観察会）
- **梶谷 哲也 氏**（黒滝村森林組合：伐倒・森の観察会）
- **辻本 裕和 氏**（自然体験活動指導者：薪割り体験）
- **上長野 ゆみ 氏**（kiond マネージャー：ヒノキで竹とんぼづくり）
- **西尾 和隆 氏**（杜を育む伝統土木設計事務所：森林整備体験）
- **河原 啓之 氏**（庭せわ：森林整備体験）
- **高松 久美 氏・石之 美佳 氏**（山杜色-satoiro-：草木染め体験）
- **坂本 ゆかり 氏・大江 美保子 氏**（絵本専門士：森の図書館）
- **岡本 誠治 氏**（木工工房 遊木民：宿泊者限定プログラム グリーンウッドワーク）

［ 担　当 ］菱川裕輝・山本朱音・増田学（企画指導専門職）
池田武弘・畠山朝浩等（事業推進係）

---

1 趣旨・目的

- **森の中で子どもたちが元気に遊び、遊びを通じて森林環境について学びを深める。**
- **「森を大切にする人」、「森の中で遊び、親しむ機会」を増やす。**
- **切った木の活用から土への還元に至る「森の循環」ストーリーを五感で体感する。**

---

2 プログラム展開

時間	内容
9:30～9:45	**受付**（名札作成・A/B グループ分け・会場図配布）
9:55～	**オープニングアクト：絵本読み聞かせ** **開会式・はじめの会**（スタッフ紹介・「おじゃまします」のお約束確認）
10:15～10:45	**【森を学ぼう】木こりと行く森の観察会・チェーンソー伐倒実演**
10:45～15:00 （12:30～13:15 休憩）	**【森で遊ぼう・森を使おう・森を整えよう】** **① 薪割り・焚き火体験** **② スラックライン・ハンモック**

	③ **ヒノキの竹とんぼづくり** ④ **森林整備体験**（点穴・暗渠づくり等） ⑤ **スギ葉の草木染め体験** ⑥ **森の図書館**（絵本専門士による読み聞かせ） ⑦ **ネイチャービンゴ** ⑧ **フォレスターなりきり衣装体験**
15:15～15:30	**終わりの会・アンケート回収・解散**

※宿泊プログラム（10 月 3 日夜）
：ナイトハイク、カプラ、絵本コーナー、森林に関するカードゲーム等
※宿泊オプション体験（前泊・後泊時の活動）
：グリーンウッドワーク、曽爾高原散策

---

3 活動の様子

【遊ぶ】森と出会い、体を動かす

広大な自然のフィールドの中で、子どもたちはそれぞれのペースで森を楽しみました。

スラックラインやハンモックで揺られたり、アナグマの巣穴をライトで覗き込んだりして五感を解放しました。

また、森の図書館で絵本をとおして自然に出会ったり、ネイチャービンゴを通じて秋の森の宝探しをして実際に触れて楽しんだり、フォレスターなりきり衣装を着て記念撮影を行ったりなど、森に親しむ笑顔が溢れていました。




ハンモック




スラックライン



なりきり体験

【使う】森の恵みを活用する

木こりさんが伐り倒したスギやヒノキの恵みを余すことなく活用しました。今年度伐倒した木は、丸太となり、翌年度以降の事業で活用されます。それ以外の部分も違うプログラムで活用されています。スギの葉をぐつぐつ煮込んで染料として活用した草木染め体験や、森林整備体験時の環境再生資材としても活用しています。

また、昨年度伐倒して乾かしておいた丸太は、キンドリングクラッカーを使って薪割りをしました。できた薪で火を起こしてマシュマロを焼く体験は大盛況となりました。燃え残った炭も森林整備で活用しました。

kiond の上長野氏には、ヒノキの竹とんぼづくりを提供いただきました。木ひとつから遊び、暮らし、森林保全にと余すことなく使える「木」を丸ごと使う体験をしていただきました。






たき火　　**薪割り**　　**杉の葉っぱで草木染め**

【学ぶ】木を知り、森を知る

プログラムのハイライトである伐倒実演では、木こりの山本氏・梶谷氏の合図とともに巨大なスギ・ヒノキの木が倒れ、迫力ある音と光の差し込みに歓声が上がりました。伐倒後は「なぜ間伐が必要なのか」「枯れ木も生き物の住処になる」といった森の循環についての解説に熱心に耳を傾けていました。

また、森の中に設置された「森の図書館」では、絵本専門士による読み聞かせが行われ、体験と物語が優しく結びつきました。






絵本読み聞かせ　　森の図書館　　木こりの森の観察会　　伐倒実演

【還す（ととのえる）】森に感謝し、環境を再生する

「森をととのえる」活動では、西尾氏・河原氏の指導のもと、空気や水の流れを改善する「点穴（てんあな）」や「暗渠（あんきょ）」づくりを実施しました。株式会社インフィニティよりご協賛いただいた麻袋を土嚢として土留めに活用し、焚き火で残った炭や枝葉を土中に埋設し土中環境を改善する作業を行いました。子どもも大人も、砂遊びの延長のように穴を掘り、炭を撒く活動自体を楽しみ、その体験が土中の微生物を活性化させ森を豊かにする循環の一部であることを体感しました。





土中環境の改善のための、伐倒木の枝葉を活用した暗渠・点穴づくり

4 ふりかえり

【参加者の声】

○ 「行く前は『Switch 持っていってゲームしていい？』と言っていましたが、全くそんな必要なく子どもは楽しんでいました。豊かな自然の中で親もゆったり過ごせました。」

○ 「キンドリングクラッカーでの薪割りや火起こしに夢中になり、兄妹で協力してマシュマロを焼けたことが大きな自信になったようです。」

○ 「今回の体験を通じて、森のために行う活動を少し知ることができ，私自身にも，また、森の地面やたくさんの木、たくさんの自然になかなか触れることのなかった子どもたちにもいい経験になりました。」

○ 「子どもたちは昨今の熊のニュースなどを見て、『山は怖い』というイメージだけがあったように思います。実際訪れて、山での気温、自然の香り、落ち葉を踏む音、自然の中での心地よい経験が、『もっと居たい』『また来たい』ととてもイキイキした帰り道になりました。」

【講師の声】

＜上長野 ゆみ 氏（体験・体感型施設「kiond」マネージャー／木育プログラム）＞

○ 「一つのストーリーを通して、木を伐ることから、暮らしの中で活用し、再び森や土へ還していくまでを、親子で楽しみながら学べる大変意義深い取り組み」

○ 「単なる遊びや工作にとどまらない学びがあり、森と私たちの暮らしとのつながりを身近に感じられる」

＜坂本ゆかり 氏 大江美保子 氏（絵本専門士／森の図書館・絵本読み聞かせ）＞

○ 森の中での読み聞かせは参加者の心が開かれやすく、商業施設等で実施する場合とは異なる魅力がある。

○ 実際に、絵本をきっかけに森へ出かけたり、生き物や自然への興味を広げたりする子どもの姿が見られ、「自然体験×読書」の可能性を強く感じられた。

○ 自然体験と読書を往還することで、子どもたちの探究心や想像力を育む取組として、今後の発展に期待したい。

【担当者所見】

プログラム全体を「森の循環（伐倒→利用→学び→土への還元）」という一貫したストーリーとして構成し、各ブースで専門家と協働した「ホンモノ」の体験を提供することができました。

ただ遊んで終わるのではなく、子どもたちの遊びや作業そのものが自然と共生した遊びや暮らしであり、炭素貯蔵や土壌改善から始めるネイチャーポジティブに直接貢献する構造を参加者の方に実感いただけたことは、事業 3 年目としての大きな成果です。

今後も地域の指導者や専門家とのネットワークを活かし、持続可能な教育インフラとして発展させていきます。